

項目	観点	教科書名						
		新しい数学(2・東書)	数学の世界(4・大日本)	中学校数学(11・学図)	中学数学(17・教出)	未来へひろがる数学(61・啓林館)	これからの数学(104・数研)	中学数学(116・日文)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うためにどのように配慮されているか。	・日常生活や社会の事象から話題が取り上げられ、数理的に捉えたり、数学の問題を見出して数学的に処理したりしながら問題を解決していくという、数学の問題発見・解決の過程が身に付くように配慮している。 ・キャラクターが発する言葉が、問題を解決するための見方や考え方となっており、数学の事象について統合・発展的に考え、問題を解決できる力が身に付くように配慮している。	・利用の問題では、考えの過程が示されており、「問題をつかむ」から「振り返る」までの過程の中で、論理的に考察する力が養われるように配慮している。 ・「学びにプラス」では、学習した内容をさらに深めたり広げたりするためのきっかけとなる話題や問題が用意され、数学を活用して事象を数理的に捉え、問題を解決していく力を伸ばせるように配慮されている。	・ページ右端の「見方・考え方」は、帰納、演繹、類推など10種類の数学的な見方・考え方を示し、それをもとに振り返ることで、統合的・発展的に考察する力を養えるよう配慮がされている(10種類はP.4 に具体的に記されている)。 ・「ふりかえり」として、その時間の学習で、小学校での既習事項と関連のあるものを挿し込んである。統合・発展的に考察して学びを深める配慮がされている。	・巻頭のページで13に分類された数学的な考え方が、各ページの中で関連する部分に記載されている。具体的にどのような考え方が使われているか、生徒に分かりやすく伝わるように配慮されている。 ・既習事項とのつながりを強く意識して作られている。授業の課題をはじめ、単元に入る前のレディネステストや、目次、巻末には学びのマップがあり手厚くできている。「数学と生活」「数学の広場」などは、現実の世界と数学の世界の結びつきにも配慮がなされている。	・脚注の「ルーペマーク」には、そのページで用いられる数学的な見方や考え方が記載されており、統合的・発展的に考察したり論理的に考察したりする力を養えるように配慮がされている。 ・巻末にある「学びをいかそう」では、他の教科や領域に関連した問題や、数学が活用されている日常生活や社会の事象を取り上げ、身に付けた思考力・判断力・表現力を用いて、新たに学んだ知識・技能を活用することができるように配慮されている。	・学習のまとめり毎の問題「Q」が、問題解決型の形式となっており、思考力・判断力・表現力の育成につながる。「～正しいといえますか?」「どのように考えたでしょうか?」という問いかけは、論理的に考察する力を育成する授業づくりへの配慮がされている。 ・単元の導入において日常の世界を取り上げること、学習に必要感と目的意識をもたせることができるよう配慮されている。 ・「やってみよう」「考えよう」では、関連する話題を取り上げ、学びが深められるように配慮されている。	・単元末に他教科に関連した課題が掲載され、生徒が興味をもって主体的に取り組む事ができると共に、数学の世界以外でも数学を活用しようとする態度を育てることへの配慮がされている。 ・ページ右端の「大切な見方・考え方」で考え方の視点を示し、それをもとに振り返ることで、統合的・発展的に考察する力を養えるよう配慮されている。 ・「学び合おう」では、学習のプロセスが示され、見通しから振り返りまでを考えることで、論理的に考察する力を養えるよう配慮されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫が見られるか。	・その時間で学ぶことのできる「見方・考え方」をルーペ記号で見やすく記してある。さらに巻末の「大切にしたい見方・考え方」は、これまで学習してきた見方・考え方を振り返ることで、見方・考え方を働かせて、問題を数学的に考察する力が身に付くように配慮している。 ・「データの活用」では、節の導入で取り上げた題材を、節を通して考察の対象としており、データを目的に応じて整理し、多面的に見ることを通してデータの傾向を読み取るとい、学習のねらいをしっかりと抑えた内容となっている。	・「学びのふり返し」は、学習してよかったことや、学んだことを利用してできるようになったことについて振り返ることで、自分の気づきや考えを深めることができるように配慮されている。 ・練習課題においては、「判断すること」を意識した問題が用意され、どちらに判断したか自分の考えを述べさせることで、「対話的な学び」が展開できるよう配慮されている。 ・考え方を比べたり話し合ったりする場面を多く取り入れ、対話的な学びが展開できるように配慮されている。	・「役立つ数学」や「深めよう」などで身の回りで数学が役立っている場面を取り上げ、数学を生活に生かそうとする主体的な態度の育成につながるよう配慮されている。 ・「正しいかな?」という問いかけで判断を求める課題設定がある。生徒に判断の理由を考えさせるとともに、数学的な表現を用いて説明する場面を作り出すなど、対話的な学びにつながるよう配慮されている。	・章の導入問題が面白く、数学的活動の楽しさや数学のよさを感じる事ができる。その課題に対する答えは章末に掲載されており、章での学習を通して解決できる構成となっている。単元を通して関心・意欲をもち続けさせ、主体的な学習活動が展開できるように配慮している。 ・各ページごとに働かせてほしい見方・考え方が記されている。さらに、別の考え促すような発問が用意され、多様な考えを議論する対話的な学びにつながるよう配慮している。	・単元の導入問題はストーリーがあり、生徒にとって数学を使う場面がイメージしやすい。また、導入時には必ず「話しあおう」を設定し、結果を予想する活動が取り入れられている。下位の生徒にとっても答えやすい内容となっており、生徒の関心・意欲を高め、主体的な学習が展開できるように配慮されている。 ・「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」という課題を設定して、思考力や表現力を養うとともに、言語活動をふり返ったり、深い学びに結び付けたりできるように配慮されている。	・会話形式で学習が進められており、対話的な学びを充実させることへの配慮がなされている。 ・巻末の「数学旅行」では、他教科に関連した問題や日常生活、社会の事象を取り上げ、数学を学ぶ有用性が味わえるように配慮がされている。 ・中学生のキャラクターが話し合いの視点を与えてくれることで、対話的な学びをサポートしてくれたり、研究ノートを活用してこれまでの学習をふり返ったり、深い学びに結び付けたりできるよう配慮されている。	・数学的な見方・考え方をページごとに示しており、これらを活用した教師の発問を通して、対話的・深い学びが展開できるように配慮されている。 ・誤答が示され、その誤りを生徒同士が正すことで、対話的な学びが展開されるよう配慮されている。 ・日常の世界や社会の事象を数学の世界で考察することを通して、生徒が主体的に学べるように配慮されている。
3 配列・分量	○単元構成及び教材の配列、分量には、どのような特色があるか。	・節のまとめり毎に「基本の問題」が設定されている。どこで学習した内容であるかが一目でわかるよう教科書のページ数が記載されており、生徒個々に振り返ることができるよう配慮されている。 ・章末問題はA、Bにレベル分けされている(Aは基本、Bは応用したり活用したりする問題)。また、巻末には解答も用意されており、個々の習熟の程度に応じて取り組むことができるように配慮されている。 ・1年では「素数」を学習する部分として単元「整数の性質」を設定している点は、指導者にとっては扱いやすい。	・問題をよりよく解決できるよう、「数学的な見方・考え方」の例を巻頭に掲載し、深い学びにつなげられるように配慮されている。 ・巻末に「課題学習」「MATHFUL」を掲載し、他の教科や領域に関連した問題や、数学が生かされている生活場面の問題を取り上げ、楽しく豊かな数学の世界に触れることができるように配慮されている。 ・各単元の最後には「〇〇の利用」が設定され、日常に活用できる問題や学習した内容を応用する問題に取り組む時間を確保できるよう配慮されている。	・学習を通して自分ができるようになったことを確認したり、学んだことを書いたりするページが設けられ、基礎的・基本的な知識・技能や、大切な見方・考え方が定着しやすくなる構成となっている。 ・各章ごとのまとめの問題が、基本・応用・活用の3つに分類されており、習熟の程度に応じて確認できるように配慮されてる。Questionや例題、問いは、段階的にステップアップできるように配列されている。	・章末問題に「学んだことを活用しよう」と題した応用問題が用意されている。日常生活に数学を活用する力や、事象を数理的に捉える力を、適用練習において身に付けることができるように配列されている。 ・1年では「素数」を学習する部分として「第1章整数」という単元を設定している点は他社との違いである。数の学習ではあるが、「正の数・負の数」の学習内容とは異なるため、指導者にとって扱いやすい。	・章末問題が、「学びをたしかめよう(基本)」と「学びを身につけよう(応用)」に分かれていて、習熟の程度に応じた学びが展開できるように配慮している。 ・裏の表紙から始まる縦開きの「自分から学ぼう編」を掲載し、問題を解いて理解を再確認したり、これまでの学びを深めたりすることができるように配慮されている。 ・例題がパターンごとによく整理され、分量も適切であり、予習として先に学習を進めたり、復習として教科書で振り返ったりする際に、とても使いやすくてきている。	・節ごとに確認問題があり適宜確認ができる構成となっている。単元末の練習問題は、A問題、B問題、確認問題と段階を分け、習熟の程度に応じて生徒が取り組めるように配慮されている。 ・単元の始めに「ふりかえり」が掲載され、当該学年の学習に入る前に必要となる既習内容を確認できるように構成になっている。 ・練習、確認、章末問題と、段階を踏んで学習内容を確認できる構成になっている。「チャレンジ編」や「課題学習」など発展的な学習を求める生徒にも配慮がされている。	・本時の学習の出発点となる問題、本時のめあて、内容を理解するための具体例、より内容を理解するための練習問題という構成になっており、経験の浅い若手教員でも授業展開がスムーズにいくように配慮されている。 ・例題と練習問題がセットになって配列されているため、生徒にとって解法を真似する(見て学ぶ)のに役に立つ。また、証明問題では穴埋め問題を設定し、論証に不安を抱える生徒も主体的に取り組めるような配慮がされている。
4 表記・体裁	○ 表記や表現、体裁について、どのように配慮されているか。	・各時間の課題となる「Q」の文末表現が、「考えてみましょう」「どうしたらよいでしょうか」「説明してみましょ」「どんなことがわかるでしょうか(いえるでしょうか)」「…としてもよいでしょうか」等、思考や判断、表現を求める文章となっており、主体的な学びにつながるよう配慮されている。 ・色が豊富であるが、視覚的に優しい色使いを行っていることで、問題や要点が見やすくなっている。 ・行間にゆとりをもたせたり、重要な表記はフォントを大きくしたりする工夫がされ、文字が読みやすい。	・見開きの2ページ分が1単位時間の内容となっていて、指導者にとって分かりやすい体裁となっている。 ・性質や法則などの重要な事項については赤色で囲んだり、背景を色で塗りつぶしたりして、分かりやすい表記となるよう配慮されている。 ・単元の導入場面では、単元全体の学習につながる写真やイラストが効果的に示され、生徒の興味・関心を高める配慮がされている。	・単元の導入時に、今後の学習内容と結びつくイラストや写真が掲載されており、生徒がその単元で学習する内容への関心・意欲が高まるように配慮されている。 ・優しい色を使うことや字間や行間の設定を工夫することで、項目や重要事項が区別して捉えやすくなり、視覚的に分かりやすい体裁になっている。 ・グラフや表は大きめの作りとなっており、直接教科書への書き込みができるように配慮されている。	・課題が緑色の枠で統一されており、教科書を見る際に一目でわかる作りとなっている。図による説明が豊富であり、多様な見方を促したり、理解が困難な生徒への配慮もなされたりした体裁となっている。 ・「例題」「たしかめ」「問題」という三段階の流れになっており、スモールステップで学習していくことができる。数学が苦手な生徒も主体的に取り組める体裁となっている。	・イラストや写真を多く取り入れることで、問題場面を生徒たちが把握しやすいように配慮がされている。 ・基礎的・基本的な知識や技能については、見やすいように枠に入れて記述するなどして、振り返りが容易になるような配慮がされている。 ・式やグラフ、図形においても、色使いに配慮がなされ、大事な部分に生徒の視点が自然に集まる表記となっている。文字は形や大きさが見やすく、色合いも落ち着いており、誰でも使いやすいうに配慮されている。	・単元の導入時に学習内容と結びつくイラストや写真を示し、学習内容への関心と目的意識を高めることができるように配慮されている。 ・優しい色使いで、見出しが視覚的に分かりやすく示されている。文字の大きさ、太さ、書体などを使い分けたり、マーカーで色付けしたりすることで、数学が苦手な生徒でも扱いやすいように配慮されている。	・下地の白色がクリアであるため、色文字や色のついた図形、グラフが見やすい。色や文字の形、大きさにおいてユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色合いも程よく(きつくない)、教科書全体として目に優しくできている。 ・重要な内容は目立つように色を付けて見やすくなっている。また、学習のめあても赤字で表記されているので、何を考えればよいのが明確に捉えられるように配慮されている。 ・学習内容ごとにめあてが示され、学習の目標が分かりやすい。